

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水產業費 項：畜產業費 目：畜産振興費

事業名 資源循環型畜産確立推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 畜産振興課 酪農・飼料係 電話番号：058-272-1111(4138)

E-mail : c11437@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 740 千円 (前年度予算額： 822 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳						
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債
前年度	822	0	0	0	0	0	0	0
要求額	740	0	0	0	0	0	0	0
決定額								

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

畜産経営に起因する苦情は、悪臭、水質汚濁がその大半を占めている。

環境問題を未然に防ぎ、また、問題を早期に解決することは、安定的かつ継続的な畜産経営を実現するうえで極めて重要である。

畜産農家は、耕種農家のニーズに即した堆肥の生産及び供給が求められている。

(2) 事業内容

畜産環境問題の発生防止・早期解決を図るため、畜舎等から発生する臭気、排水の水質など環境管理に課題を抱える畜産農家を指導する。

家畜排せつ物から生産される堆肥を、より一層農業生産現場で活用を図り、資源循環型農業を推進するための支援体制を整備する。

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10(畜産振興のための事業であり、県負担は妥当)

(4) 類似事業の有無

無し

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	50	環境指導旅費
需用費	650	環境指導及び調査に係る消耗品費、燃料費
役務費	40	通信運搬費
合計	740	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 後年度の財政負担

地域と調和した畜産農業を推進するため、畜産環境問題の発生防止・早期解決を図る上で、今後も継続的に行う必要がある。

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

苦情要因である畜舎等からの臭気や排水などについて、課題のある農家を個別に指導し、畜産環境問題の発生防止、問題の早期解決を図る。

耕畜連携農業推進のため、耕種農家のニーズに即した堆肥生産、流通を支援する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

当事業は、畜舎等から発生する臭気・排水等について指導等を行うものであり、目標を設定することは困難。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	畜産環境指導については、環境苦情の発生時には、県関係部局及び市町村等と連携し、問題があった農家へ個別巡回を行い、改善指導を行った。 堆肥利用促進を目的として県が公表している堆肥供給者リストの更新を実施。 (令和4年度実績：20検体) 耕畜連携による堆肥利用について、各地域において畜産農家と耕種農家のマッチングや相談窓口活動を行った。
令和5年度	畜産環境指導については、環境苦情の発生時には、県関係部局及び市町村等と連携し、問題があった農家へ個別巡回を行い、改善指導を行った。 堆肥利用促進を目的として県が公表している堆肥供給者リストの更新を実施。 (令和5年度実績：34検体) 耕畜連携による堆肥利用について、各地域において畜産農家と耕種農家のマッチングや相談窓口活動を行った。
令和6年度	畜産環境指導については、環境苦情の発生時には、県関係部局及び市町村等と連携し、問題があった農家へ個別巡回を行い、改善指導を行った。 堆肥利用促進を目的として県が公表している堆肥供給者リストの更新を実施。 (令和6年度実績：22検体) 耕畜連携による堆肥利用について、各地域において畜産農家と耕種農家のマッチングや相談窓口活動を行った。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	畜産農家周辺の宅地化の進展、畜産経営の大規模化により、悪臭、水質汚濁等の環境問題が発生しやすい状況になっている。 家畜排せつ物の適正管理及び有機質資源としての堆肥活用等がより強く求められるようになっている。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)	
3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	畜産環境については、問題や課題のある個別案件に対しての指導を随時行っている。堆肥の有効活用については、堆肥供給者リストを作成し、耕種農家にとって使いやすい堆肥の供給を支援している。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)	
2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	畜産環境については地域単位での指導活動に重点を置いている。堆肥利用については地域内でのマッチングが主であるが、県内全域の情報を共有し広くマッチングできるよう整備している。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

畜産環境問題は案件ごとに内容が異なるが、すぐに解決できない問題を抱える農家もあり、継続的な支援が必要である。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

地域と調和した畜産農業を推進するため、引き続き畜産環境問題の発生 防止・早期解決を図る上で、継続的に諸調査、指導を行う必要がある。

畜産農家と耕種農家の連携を強化し、より円滑な堆肥需給の情報共有及び利用体制を確立するため支援の継続が必要である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	